

2014.8.16

# 暑い夏に聴く“夏”の音楽と“熱い”音楽

## プログラム

夏本番の暑い日が続いています。今日は“夏”という題名が付いた作品と、“火”を題材にした作品で、さらに夏らしさを感じ取ってください。

ヴィヴァルディの四季は、47歳頃に作曲された、標題音楽の古典的作品で、バロック音楽を代表する名曲です。今日は“夏”をお聴きください。ベルリオーズの“夏の夜”はフランスの詩人、テオルフィル・ゴーティエの詩によって作曲された作品で、細やかな感情表現とロマンティックな味わいを持った傑作です。健康に優れなかったイギリスの作曲家ディーリアスは、35歳の頃に、より静かな落ち着いた環境を求め、フランス、パリ郊外のグレ・シュール・ロアンに隠としました。そこにはロアン川に面した美しい庭園があり、この心を和ませてくれた庭園の夏の雰囲気を描いた作品が“夏の庭園で”です。庭に咲き乱れる花々、飛び回る蝶やみつばち、ひっそりとした木立などを色彩豊かな管弦楽で叙情的に描いています。メンデルスゾーンの“夏の名残りのバラ”の基はアイルランド民謡で、日本では“庭の干草”のタイトルで紹介されました。日本語の詩ではバラではなく、白菊に変えられています。多くの作曲家がこのメロディを使って曲を書いています。今日は最も知られたメンデルスゾーンの作品です。ヘンデルの“王宮の花火の音楽”は、1748年に終結したオーストリア継承戦争と平和条約の祝賀会に於ける花火大会のために作曲されました。野外音楽らしい雰囲気と壮麗さを持った名作です。ファリャの名曲、“火祭りの踊り”、キラキラしたまばゆい色彩感に包まれた“火の鳥”はストラヴィンスキーを一躍スターの座に押し上げた傑作です。

\*\*\*\*\*

### アントニオ・ヴィヴァルディ (1678~1741): ヴァイオリン協奏曲集“四季” op.8 ~ 夏

ヘンリック・シエリング (ヴァイオリン)  
ピエロ・トーゾ指揮パドヴァ室内管弦楽団  
(1984.9.1 マルティニー、ジャナツダ会館でのLive)

### ヘクトル・ベルリオーズ (1803~1869): 歌曲集“夏の夜” op.7 ~

第1曲 ヴィラネル / 第2曲 ぼらの精 / 第5曲 君なくて / 第7曲 未知の島  
シルヴィア・マクネアー (ソプラノ)  
小澤征爾指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1997.7.27 サルツブルク祝祭大劇場でのLive)

### フレデリック・ディーリアス (1862~1934): 幻想曲“夏の庭園で”

ミシェル・ブラッソン指揮トゥールーズ・キャピトル劇場管弦楽団  
(1996.10.9 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

### フェリックス・メンデルスゾーン (1809~1847): “夏の名残りのバラ”による幻想曲 op.15

エスタ・ブディアルジョ (ピアノ) (1998.9.22 ニューヨーク CD盤)

### ゲオルク・フリードリッヒ・ヘンデル (1685~1759): 王宮の花火の音楽~序曲/平和/歓喜/メヌエット

チャールズ・マッケラス指揮シカゴ交響楽団  
(1980.6.9 シカゴ、オーケストラホールでのLive)

### マヌエル・デ・ファリャ (1876~1946): 火祭りの踊り(舞踊音楽“恋は魔術師”より)

イーゴリ・マルケヴィチ指揮トリノ・イタリア放送管弦楽団  
(1979 トリノでのLive)

### イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882~1971): 舞踊組曲“火の鳥”(1945年版)~抜粋

マルチエツロ・ヴィオッティ指揮サールブリュッケン放送交響楽団  
(1993.9.26 コンGRESハレ大ホールでのLive)